

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	日本解剖学会、日本神経化学会
※	日本神経免疫学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本未病学会、日本温泉科学会
※	日本がん転移学会 日本がん分子標的治療学会 Metastasis Research Society
※	日本生理学会、北米神経科学会 (SfN)
※	日本人類遺伝学会
※	日本蛋白質科学会

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている 記述
※	ワークショップに共催のものが多すぎて、「分子生物学会」らしさが損なわれているように感じた。実際、行きたいと思えるワークショップが減っており、ワークショップが面白くない年会であった。共催そのものは問題ないが、ワークショップではなくフォーラムでやってもらいたいと思う。分子生物学会が培ってきたワークショップが共催に潰されるのは残念ではない。
※	新学術などの競争的予算と被っている。

質問5-10. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	Q&Aシステムを使用していないシンポジウムがいくつか見られた
※	ハイブリッド参加でQ&Aボックスを使用したがる、時間の関係で質疑に答えていただけなかった。その場合、プログラムアプリのコメント欄に質疑をトランスファーしてくれる仕組みがあると良いと感じた。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ワークショップ発表者がQ&Aシステムを使用できないのが困りました、オンライン参加の方で時間の都合上答えられなかった場合、返答のしようがないので…またワークショップ企画後に「総合討論を入れるように」と指示があるのは困った(すでに発表者:特に海外研究者と話を進めている場合、時間調整が難しい)
※	ワークショップ会場への音の漏れ込みが少し大きかったと感じた(特に楽器演奏)
※	同じ時間帯に同じようなセッションを並列するのはやめて欲しいです。
※	ワークショップの最後の演者複数人のディスカッションで現地とオンラインの人がいる場合は座長の技量が必要となるので(質問に特定の人を答えさせるのか全員に答えてもらうのか、などの誘導)うまくいけば盛り上がりますが、上手いかわないと、ディスカッション自体がぱっとしなないと思いました。
※	総合討論について、ワークショップの企画後に連絡があったため、対応が難しかったのではないかと感じる。ほとんどのワークショップは演者と企画者がただ喋るだけ、もしくは全く取り入れないといった、コンセプトのない座談会になってしまったように思う。質疑に関しては、発表者がQ&Aシステムから解答できるようにしてもらえるとハイブリッド参加者との議論も可能であったと思う。どうしても現地参加の質疑だけで時間一杯になってしまうことがあった。女性演者については努力目標とすべきである。例えば企画者の女性割合も考慮するなどしてもらいたい。
※	ワークショップ3日目夕方のセッションは会場の片付けと並行して行われていて騒々しく、搬送口も開放になっていて寒かつ
※	「議論に時間を当てる」という意味では、パネルディスカッション自体は良い取り組みだと思うが、意図があまり伝わってなかったし、実際にほとんどのワークショップでワークしていなかったと思う。(ワークしていたところは、オーガナイザーが事前に質問を準備していた。準備していないところはワークしていなかった。ワークショップの内容とは関係のない議論もあった)。一方、パネルディスカッションに関する連絡は、演者を決める前にすべきだった。後出しだったので時間がなかった。トークの時間を削って10分ほどのパネルディスカッションの時間を作ったが、演者約8人に対して、議論するには短すぎ

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ポスターの番号順が分かりづらかった。
※	ポスターセッションの時間以外でポスター会場の照明が落とされるのには不満を感じた。
※	ワークショップの時間帯にポスターのエリアが消灯されるのはよくなかった。この時間帯にポスターを見たい場合もあるの ポスター発表の時間以外は照明が暗くされており、発表時間以外にポスターを見るのに苦労しました。この学会はポスター の数も多く、実際は時間内に回ることはできないため、時間外も明るくしておいてほしかったです。
※	Q6からの続き。また、事前に共有された「オーガナイザーがあらかじめストーリーを作る」「サクラの質問を用意する」等の 指針については全く理解できなかった。これはパネルディスカッションやるかどうかとは全く別の話で(好みの問題はあるに せよ)、国際的な場でそのようなやり方を見たことがない。伝説的なWSという表現も非常に抽象的で、参加者には意図が

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉（その他）

回答者 番号	その他記述
※	スケジュールが詰まりすぎているので、見直して欲しいです。
※	2日目のクロマチンのセッションなど、同時間に同様の内容のワークショップが重なっていた。
※	ポスター討議時間がしっかりとられていることは自身の発表を深める点で重要であったが、通いで参加している者としては17:00くらいまでにより多くの口頭発表が聞くことができる日程だと、多くの演者の発表が聞けてより充実したのではないかと感じました。
※	最終日は早い時間のクローズにしてほしい。帰路のため最後まで聞くことができない。

質問9. フォーラムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述(参加されたフォーラムの感想を含めて)
※	夕食の時間は考慮していますか？
※	フォーラムを夜に限定する理由は無いと思う。夜にしなければいけない理由がわからない。
※	Q10からの続き。パワポへの変換に多くの時間を割いたと参加者からの声を聞いた(そして結局字幕は使わなかった)。もちろん使いたい人は使えばいいが、使う、使わないの選択肢は参加者に委ねるべき。もちろん、学会が方向性を示すことはいいことだが、フレキシビリティを持つことの重要性を過小評価していると感じた。
※	参加したかったが夕食の時間と重なり参加できなかった。遅い時間の移動も防犯上の問題から怖いです。

質問10. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本の学会なので日本語をもっと大事にしたら良いと思います。日本人が日本語で研究を伝える大切さをもっと考えた方がいいと思います。日本人の一般の方にサイエンスの理解が広がらない背景について、研究者の意識改革の余地もあるのではないのでしょうか。税金で研究をしている以上、その成果は海外だけでなく国民や異分野の研究者にわかりやすく説明されるべきです。分子生物学会はかなり異なる分野の研究者が交流できる機会でもありますので、専門家が専門用語のみでコミュニケーションする学会とはコンセプトを別にした方が良いと思います。
※	ライブキャプションはむしろ邪魔だった。理解を妨げる(文字を追ってしまうのでスライドを見る時間が減る)事になっていたと思う。また、ただでさえスライドが小さいのにもっとスライドが見えなくなってしまった。
※	オーガナイザーに一任でよいかと思いました。プログラムに使用言語も併記してあり、参考になりました。ライブキャプションはどうしてもそちらを追いかけることに気が散ってしまったため、なくてもよかったです。
※	ライブキャプションは気が散るので不要だと強く感じた
※	ライブキャプションは意味がないというより、以下の良くない点があった。1)画面が小さくなる2)日本語の変換の精度が悪い3)英語については綺麗な発音の精度は問題ないが、音声と表示にズレがあるので聞きづらい(そもそも綺麗な英語であれば字幕がいらない。もちろんYouTubeのようにズレなく表示されれば助けになる)。多くのワークショップ、それから自身が参加したものでも字幕は使わなかった。これらは事前にトライアルした際に共有されなかったのか疑問。また、パワーユーザー以外のことを配慮できていない。字数制限上、Q9へ続く
※	all sessions might be in English.
※	キャプションは、特に日本人の発表の場合、誤訳が多く、読みづらかった。

質問11. 本年会では一人一演題の制限を廃止しました(ただし複数演題の投稿は可能ですが、異なる研究内容に限るものとしました)。また、発表者に演題投稿時Graphical Abstractの提出をお願いしたり、講演セッションについては内容が一目で把握できるようセッション名の略称も付けていただくなど、参加者のサイエンティフィックな出会いの可能性を広げる仕掛けを試みています。その点についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Graphical abstractの使用目的が明らかでなかったため、どのように準備すれば良かったのかわからなかった。ガチャなどに使用されるのであれば、より一般化した図にしたと思う。
※	セッションのタイトルがユニーク過ぎて、どのような内容・コンセプトなのかがかえってわかりにくく感じました。結局どのようなカテゴリーなのか分かるように、セッションを大きくクラス分けして欲しいです(W1-4は発生、W5-8は分子、など)。複合領域であれば、何と何の複合なのか分かるようにして欲しいです。また、同じカテゴリーのセッションはなるべく並列させないで欲しいです。研究には流行りがあるので、同じようなセッションが複数立ち上がることがありますが、時間を別々にするなど、バランスを考慮して頂けるとありがたいです。
※	graphical abstractの使用目的がよくわからないまま作成してしまった。事前にどのような目的で使用されるのかを聞いていれば(演題ガチャなど)、よりコンセプトを示すような図にしたと思う。
※	Graphical Abstractは(後から演題登録後も修正が可能となったが)演題登録時点で完成したものを提出するのは早すぎるので、締め切りを遅くしてほしい。
※	Graphical Abstractだけ見てもあまり内容が分からず、結局抄録を読んだので、それほど時間短縮や理解の促進に繋がるようには感じられなかった。キーワードで演題を検索するので、その入力に力を入れてもらうよう指示を出すことが重要だと感じた(その点では検索機能がうまく働かなかったことは、かなり不便に感じた)。
※	グラフィカルアブストラクト自体は良かったと思うのですが、それを閲覧するシステムの使用が不便で、結局ほとんど見ていません。
※	グラフィカルアブストラクト自体は、このような大きな学会(演題が多い)に関しては良かったと思う(演題を探すときに実際に使った)。一方で、フォントの指定等は意味があまりないように思える。これは参加者側の問題だが、ポスターのように詰め込むタイプのものもあり、あまりグラフィカルアブストラクトの意味を理解できてないように思えた。

質問12. 年会の参加登録・演題登録システムおよび視聴サイト(AGRI SMILE社ONLINE CONF)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	要旨・プログラムサイトの動作が重たかったように思う。また演題検索システムで正規表現を許容してほしい。可能であればポスター位置を表示してくれるとありがたい(会場が広くポスター番号がどこで折り返すのか、よくわからなかった)
※	オンラインセッションは不具合が多く、改善の余地があると思いました。また、wifiのパスワードがわかる場所が少ないので、もっと色々な場所に設置するか、パンフレットに記載して欲しいです。
※	プログラムサイトが重たかった。演題の検索に正規表現やミスマッチを許容するような工夫が欲しい。(少しでも違う単語だとヒットしてこないことがあった)
※	要旨・プログラムサイトがスマートフォン画面对応するが、文字などがずれる場合があります。そのバグを直してほしい。演題や発表者・参加者検索も検索キーワードと合わないものがたくさん出てくるので、改善してほしいです。
※	プログラムサイトはわかりづらいし、利便性に欠ける。会期中一度も使うことはなかった。あってもなくても一緒のサイトは無駄である。
※	毎回ネットからプログラムサイトに接続しなければならなかったため、SfNのように要旨やスケジュールを確認できるようなアプリを提供するのも良いと思った。
※	著者名や所属先が多いと個別に入力するのは大変である。
※	プログラムサイトは基本的に使いやすかったが、いくつか不便を感じる点もあった。・要旨を開く際に2回ウィンドウを開く必要があった。演題を選択したらスムーズに要旨を見られた方がありがたい。・サイエンスピッチとポスター発表のリンクがサイト上になかった。サイエンスピッチを聞いて興味を持っても、ポスター発表を発表者氏名などから再検索する必要があり、
※	検索機能のトラブルが治されて欲しかった。
※	使いやすかった。検索がうまくいかないことがあった。
※	スマホで要旨閲覧の際は、文字数が多いとスクロールが大変で全体が見えないので、文字数を減らして欲しい。Graphical Abstract中の文字が小さくて読めないものがあつた。

質問13. 本年会では昨年に続き、一般演題のタイトル情報まで入った詳細な(A5サイズ・厚さ1~2cmの)年会プログラム集冊子や年会アプリは作成しませんでした。また、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	紙媒体の配布をやめることには賛成だが、オンラインでの検索システムを拡充してほしい。
※	HP上での人物検索、演題検索がうまくいかず、使いづらかった。また、演題ページに飛んでもタイトルと演者情報の表示のみで、肝心の要旨を見るために更にワンクリックが必要になるのはとても無駄な作業だと感じた。
※	SNSのみで発信する情報があるのは不便に感じた。申請書等はプログラムに載せることが難しかったのかもしれないが、当日SNS経由で知る企画が多すぎたように思う。
※	充電の問題などが生じることもあるので、簡易版の冊子に簡単なメモができるページを数ページつけてもらえるとよかつ
※	サイトしか使わなかった。当日もらった紙類は結局使わなかった。
※	会場の設備は掲載された地図があると良い。
※	紙の冊子は簡略なものが良いが、電子版で参加者や投稿されたアブストラクトを確認できるとなお良かった

質問14. 年会・学会のその他の講演に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	マスク発表は聞き取りにくいし、演者も喋りにくいので、マスクなしでの発表はよかったです。また、聞いている時は基本話をしないので、マスクは不要だと思いました。そもそもマスクにエアロゾル感染予防の効果はないことが証明されているので、生物系の科学者の学会としては、方針を科学的に考えた方が良いと思います。
※	展示会場内の特設講演会場は悪くない試みだったが、ただでさえ広いポスター設置場所がさらに広くなり移動が大変だったため、壁際に設置するなどのレイアウトの工夫が必要と感じた。
※	幕張という立地は利便性等満足でした。

質問15. 企業展示会等でよかったと思うものを選んでください<複数回答可>(要望・その他)

回答者 番号	要望・その他記述
※	企業によりデジタルポイントラリーへの取り組みにばらつきが感じられた。企業ブースでアンケートに名前やメールアドレスを入力するのが手間なので、デジタルポイントラリーに参加すると自動で登録した名前やアドレスが企業側に渡される仕様にしてもよかったのではないかと。

質問16. 年会の講演以外に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください<複数回答可>
(その他)

回答者 番号	その他記述
※	地域振興も大事だとは思いますが、音楽演奏などに係る費用からトラベルgrantなどが捻出できないかと思っている。
※	参加証が大きすぎて、またケースもなくて、不便だった
※	参加章は大きく邪魔に感じた
※	参加章は見やすいが邪魔でした。今までのサイズでフォントを大きくすれば良いではないでしょうか？
※	参加証が大きくなったことは良いが、耐久性に欠ける。耐久性がない不便さのほうが勝った。
※	きき酒コーナーが非常に良かった。参加者同士のインタラクションは学会の重要なポイントの一つなので、コミュニケーションの場になった。
※	スマホの活用頻度が非常に高いため、途中でバッテリーが切れました。充電箇所を増やすか、モバイルバッテリーの貸し出しがあると便利です。
※	ワークショップ中に、同じ会場内で楽器演奏をしていることに疑問を感じた。オープンスペースのため周りの雑音が気になり、トークに集中できなかった。

質問17-5. 年会参加登録費についてお聞きします(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>
(年会参加登録費は誰が負担していますか(本人の私費・所属機関の運営費・外部から獲得した研究費・詳細は不明だが所属の研究室負担で参加できる等))

回答者番号	年会参加登録費は誰が負担していますか 記述
※	本人の私費
※	テーマソングの作成や演奏者の招待よりは、学生へのトラベルグラントなどを拡充する方が良い気がした。外部から獲得した研究費で参加費を支出している
※	本人の私費
※	所属研究室負担
※	外部から獲得した研究費
※	科研費から支出
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	外部から獲得した研究費
※	本人の私費
※	私費にしても公費にしても10,000円が限界である。
※	今回は招待だったので参加費は不要だった
※	外部から獲得した研究費
※	研究室主催者の研究費負担
※	参加費は外部資金、年会費は私費。大学での開催と比較して設備は充実しているので許容範囲と考えた。しかし、外国人研究者の招待は今後全てオンラインとし、費用削減し、参加費を安くすべきかと考える。
※	研究費

質問17-6. 年会参加登録費についてお聞きします(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>
(その他)

回答者 番号	その他記述
※	学会参加費に充てる研究費は税金です。無駄にせず必要十分な内容になるよう注意深い検討をお願いします。
※	参加費が高いのは仕方がないが、結局、分子生物学会以外の団体との共催ばかりで、分子生物学会らしさが損なわれたことは大変不満である。共催はもっと減らしてほしい。共催がなくても問題ない。よそでやってほしい。
※	プラスちばキャンペーンを利用した。非常に良かった。
※	参加費が高額すぎる。非常識。正会員の当日参加費が20,000円など到底受け入れられない。次回もこの参加費なら退会

質問18. 分子生物学会の年会では毎年、公式旅行代理店による宿泊予約受付や、年会託児室の設置(設置費用:年会負担、利用料:一部利用者負担)を行っています。それらの利用状況などについてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	保育中にオンラインで質疑など絶対にできない。オンサイト参加でも午後のワークショップの時間は遅すぎて、保育園等の迎えの時間に引っかかるので、1時間も視聴できなかった。その代わり昼間にポスターセッションがあるので今年も発表で
※	比較的近隣に在住で通いで参加であり、オンライン参加ができることで、子供を預けてから移動中に視聴しながら現地に移動することが可能であり、大変有り難かった。遠方からの参加のケースでも、研究者間のコネクションはin personが圧倒的に促進されるため、特に夫婦で参加するケースを想定して、託児があると良いのではと考える。
※	託児室の利用料は使用者で全額負担すべき。

質問19. 本年会の開催形式(単独開催・他学会共催形式による連携※)について

※本年会において生物物理学会の会員は分子生物学会会員と同じ資格・参加費で参加可能としました。また生物物理学会の方にも年会組織委員の就任を依頼し、年会の企画・運営に携わっていただきました。一部のシンポジウムは生物物理関連分野のテーマで行われています。(その他)

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問20. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	参加したいセッションが被ることがあるので、オンデマンド配信があると助かります。
※	家庭の事情(子育て)から早朝・夕方以降の参加が難しい場合でも、オンラインで参加できるのはありがたかった。やはり学会期間中に集中して聞けた方が、実りが多いと考えている。オンデマンドよりはオンライン併用が優先度が高いと感じ
※	オンラインとオンサイトで参加できる項目が異なるのであれば(ランチョンセミナーなど)、オンラインのみの参加者は参加費を安くしてもいいと思う。

質問21. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ダウンロードできなくてもスクリーンショットで画像の保存はできると思います。
※	シンポジウム、ワークショップに関しては期間限定のアーカイブ配信ならば抵抗はない。ポスター発表に関して、発表者へのフィードバックがないオンライン発表や公開には意義を見出せない。

質問22. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	オンライン参加だと質問が無視されてしまうことも多く辛かったです。
※	参加証が大きすぎて邪魔に感じました。久しぶりの分子生物学会への参加でしたが、所属している学会の内容だけでは凝り固まった演題しか見られないことも多いので、様々な知見を得ることが出来たため、参加してよかったと感じました。
※	異分野交流のために、様々な他の学会との共同開催や企画などを模索したら良いと思います。例えば、思い切って文系の学者や、理論物理の専門家などの討論会などがあつたら面白いと思います。今後の分子生物学はいよいよ一分野の専門家では研究不可能な領域に到達してきているので、学会としても新しい試みを期待したいです。また、一般公開講座や、高校生卒などをもう少し広げていけると良いかと思えます。コロナ感染症問題などもあり、分子生物学会が社会や異分野の研究者に対して発信すべき活動内容が増えているように思います。
※	今年は費用が高額だったので周囲は参加を見送っていた。私も科研費がなければ参加を見送ったと思う。抄録検索のためだけにインタラクティブなウェブアプリが必要か毎回不思議に思う。検索可能/ZOOMのURL貼り付けが可能なPDFでい
※	・今年度年会の感染拡大防止対策(常時マスク着用、感染対策員の巡回)は国際水準からかけ離れており過剰であると感じた・Meet my Hero/Heroineでマスクを外されている先生が見受けられたが、それならば参加者がマスクをする必要もないのではないかと・2017年度年会のような生化学会との合同開催を希望する・幕張メッセは空港等からのアクセスが悪く不便であった・国際展示場奥側が暗かった
※	共催のシンポジウム・ワークショップをもっと減らして(ゼロでもよい)、分子生物学会が培ってきた内容や演題を、シンポジウム・ワークショップとしてきちんと維持するべきだ。結局、共催したところで内輪のりしか参加していないし、もともと分子生物学会を楽しみにしてきた層からすると、傍聴する選択肢が減るだけだった。正直、ワークショップはつまらないものばかりだった。これだけの数のワークショップがあるのに、つまらないと感じるのは異常だと思う。
※	公式twitterでの情報発信やRTは、参加者だけでなく外部へも年会内容や盛り上がりアピールできるのでよかったと思う。非会員と思われるアカウントからも、「分子生物学会は面白そうだ」というtweetを多数目にした。
※	プログラムのアプリをもっと検索しやすく、要旨にも簡単にアクセスできるようにしてほしい。
※	座長によるKeynoteスピーカーの紹介時にpronounを間違えまくっていてかなり気になった。ふつうに失礼なのでやめてほしい。きちんと原稿を作って何回か練習すれば防げるはずのことなのできちんとやってほしい。
※	シンポジウム、ワークショップの全容を把握しづらかった。シンポジウムの要旨では、発表演題のタイトルとその要旨が一覧で見られるような形式にもらえる、全体像が把握しやすい(冊子版だとそういった作業が行いやすい)。なので、電子版で構わないが、工夫があると良いと感じた。
※	オンラインでの発表が選べることは、これまで学会に参加しにくかった人たちに発表の機会ができてよいことだと思います。そのため、今後もオンラインでの参加の可能性は残るといいと思っています。女性発表者を増やすことは良いと思うのですが、複数の学会でそういう制限ができると、一部の女性に負担がいくのではないかと心配しています。頼まれると断りにくいでしょうが、発表の回数が増えてしまうと研究や日常業務に影響するのではないのでしょうか。
※	会を良くしようと気持ちや、新しいことにチャレンジする姿勢を感じられました。個人的にとってもエンjoyできました。一方で、「自分たちが良いと思ったことはみんなも良いと思ってくれるはずだ」という部分も感じました(パネルディスカッションの方針、ライブキャプション、締切の厳しさ等)。ルールをガチガチに固めること以上に、フレキシビリティを持つこと、参加者がチョイスできることは、非常に重要なことだと思います。また、字幕の問題についてはトライアルによって気付けた点もあったと思うので、トップダウン的に決めるのではなく、組織委員会内や、オーガナイザー間での話し合い、議論は十分にあつたのかな、という疑問が残りました。あとアンケートサイトが使いづらい。(入力必須の点や字数制限等。)
※	今回の参加費は高額であったと感じます。ホテルの多い地域からも離れており、宿泊費も高額であった。しかし会場の混雑がなく、これまでの年会で最も快適であった。いつもは満席で座れないセッションがあるが、今回は会場が広いのか、あるいはオンサイト参加者が少ないためか快適であったので、この状況が確保できるのであれば高額な参加費であっても
※	・遊び心ある企画はどんどんやって欲しい。・「選択と集中」された研究室が毎年のようにシンポジウムやワークショップを寡占しており、多様性が失われて久しい。はっきり言って彼らのネタを聞き飽きた。一度聞き飽きたと多少研究が進展していても、もう面白くないと感じない。・分野を横断できる技術開発系研究にもっとスポットを当てるべきだと思う。分野横断的な知識・技術を学び交流する機会が無くなれば、もはや分子生物学会に来る意味はない。
※	・ポスターの数が多く、つい立ての各列の先頭や床などに大まかなジャンルを表示してほしい。・番号の並びが分かりにくかった。ある番号以降は会場の反対側に配置されていたりしたので、行ったり来たりすることが何度かあった。・ポスター発表の時間以外はポスター近辺の照明が消されていた(節電なのか口頭発表への誘導なのか分かりませんが…)。初めて会場に来た際は特にだが、奥の方の口頭発表会場が分かりにくかった。